

令和7年度  
事業報告書  
(案)

自 令和 7年 4月 1日  
至 令和 8年 3月 31日

社会福祉法人 空知の風

## 目次

法人事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・	3ページ
たのしいどう事業報告・・・・・・・・・・	19ページ
きっちんどう事業報告・・・・・・・・・・	30ページ
あかるいどう事業報告・・・・・・・・・・	37ページ
わくわくどう事業報告・・・・・・・・・・	45ページ
そらわーく事業報告・・・・・・・・・・	52ページ
歩～夢 事業報告・・・・・・・・・・	54ページ
地域生活支援事業 事業報告 (楽しく・うきうき・らんらん) ・・・	63ページ

## 令和7年度 法人事業報告

◇はじめに

### ～令和7年度事業の総括～

令和7年度は、コロナによって休業していたカフェのリニューアルオープンや、新しく始まった就労選択支援事業「そらわーく」の開設、障がい者福祉や法人の魅力を発信するためのアンテナショップ開設に向けた建物の購入など、積極的に整備を進めてきました。また、常時支援が必要な方の生活支援のために、20名程度の規模の共同住居の必要性が高まり、日中サービス支援型グループホームの開設に向けて土地取得や設計などを進めることとしました。

法人が行なう地域公益的な活動は、「地域交流祭」や「ちいき食堂放課後レストラン」その他、街頭募金活動などを行ない、障がい者福祉の啓発と地域への還元に努めました。

利用者支援では、権利擁護に努め、就労支援・生活支援を行ないました。また、合同行事や小規模単位の外出行事等様々なメニューを提供し、個別の趣味や嗜好にあった活動に参加していただきました。

令和7年度は役員改選の年でしたので、法令に従い、理事・監事・評議員の改選を行ないました。

令和7年度の重点目標として掲げていた事項としては、

#### 1. 経営強化のための事業推進

- 「就労選択支援」を開設し、支援を希望する方へのサポートを充実する。
- 利用者のニーズ状況に応じた活動内容の強化。
- 人材の育成により専門性の向上に努めるとともに、職員の役割・業務内容を明確化するなど、職場環境の改善に努める。
- バリアフリーの住居整備など将来ニーズを受け止めるための計画を推進する。
- 理事・監事及び評議員の任期満了に伴う改選手続きを実施する。

#### 2. 多様化する利用ニーズの受け入れ整備

- コロナ禍により休止していたカフェ事業を再開する。
- 加齢や障がいにより作業が難しい方へのゆしみや機能維持など活動支援の充実。
- 就労を望む方へ向けた段階的な作業のステップアップの仕組みを構築。
- 創作活動など支援度の高い方も活躍できる活動支援の強化。

#### 3. 施設設備の更新や修繕

- パン工房春いろ内カフェスペースのリニューアル改修。
- パン工房の製パン機械設備の更新。
- バリアフリーグループホームの建設。

- プリント事業機械設備の増設。
- 「歩～夢」住居外壁の経年劣化の修繕。
- 岩見沢中心市街地に法人事業発信のアンテナショップの開設。
- その他、各事業所建物の劣化や損傷に対して、保険や自己財源で補修を行なう。

#### 4. 地域公益事業の実施

- 地域交流祭の開催。
- ちいき食堂「放課後レストラン」の開催（年数回）。
- 赤い羽根共同募金活動。
- そのほか地域の活動への協力。
  - ・地域イベントへの協力。
  - ・除雪協力。

以上の4つを掲げておりました。年間の総括としましては、

1つ目の**経営強化のための事業推進**については、10月から就労選択支援事業「そらわーく」を空知管内で初めて開設しました。また、プロジェクトごとに専門チームを作りそれぞれの役割を明確にして専門性の向上に努めました。6月に理事・監事・評議員の改選を行ない、3名の評議員が退任され、4名の方が選任されました。

2つ目の**多様化する利用ニーズの受け入れ整備**については、加齢や障がいにより心身の状態が変化した利用者に対しても、法人内の事業所間異動など、本人にあった活動を提案できるように多種のメニューを用意し、安定的な利用につながるようになりました。

3つ目の**施設設備の更新や修繕**については、コロナ禍によって休業していたパン工房併設のカフェを再開するにあたり、リフォームして新たにオープンしました。また、法人の魅力を発信するアンテナショップを開店するため、岩見沢の中心市街地に物件を取得しました。内装や外装の工事を経て、「そらわーく」「わくわくどう」の機能も備えたアンテナショップとして8年度4月よりオープンします。

4つ目の**地域公益事業の実施**については、例年の地域交流祭をはじめ、様々な活動を行ないました。特に「ちいき食堂放課後レストラン」では、初の外のイベントを実施し、アウトドアのような趣向で、様々な体験企画を参加者に楽しんでいただきました。

## ■役員会運営

令和7年度は理事会を計7回開催しました。

令和7年度は4年に一度の理事、監事、評議員、評議員選任解任委員がすべて改選となる年であるため、改選の手順を確認し、法令に従って改選を行ないました。改選の結果、橘文也理事長が再任されています。

開催された理事会では、予算や決算、事業報告や事業計画のほかに、事業計画に則り、岩見沢市中心部に法人の魅力を発信するためのアンテナショップを作るために店舗物件を協議し、2条西7丁目の物件を取得することに決定しました。並行して同物件で「就労選択支援事業所そらわーく」を行なうこととしています。岩見沢駅やバスターミナルから近いため、利便性の良さが期待できます。

また、常時支援を必要とする方の生活支援のために、日中サービス支援型グループホームを建設することについての議論を行ない、建設計画を作成し、進めていくことを議決しました。建設用地の取得や規模、構造、資金計画、補助金の申請、設計事務所の選定など具体的な計画について今後進めていく予定です。

職員の働き方についても議論を行ない、令和8年度から常勤職員週40時間労働を週35時間労働へ変更することを議決しました。顧問社労士とも協議し、労基署等に対して必要な手続きを行なっています。

その他の法人運営に係る理事会運営についても予算執行や各議案について活発かつ慎重な審議を行ない、事業運営を滞りなく実施する事が出来ました。なお、入札等の案件は発生しておりません。

評議員会は定時評議員を含めて3回開催しました。

定時評議員会では、事業報告や決算の承認、福祉充実残額の計算結果の確認等が行なわれました。また、理事及び監事の選任を行ないました。

そのほか、物件購入に伴う基本財産の増加の定款変更について承認し、不動産取得の際に金融機関へ借り入れの担保提供についての承認を行ないました。

評議員選任解任委員会を開催し、退任の意思表示があった評議員3名の承認と、提案された候補者について審議を行ない、新任4名を含めた8名の体制で選任をしました。

監事監査については、四半期毎に会計監査、運営監査を実施し、運営および財務状況について点検のうえ意見を頂き理事会で報告をしていただいております。

その他、社会福祉法人会計に長けた会計士事務所による外部監査も継続しており、法令に基づいた適切な会計処理となるように点検を行なっています。

○理事会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			理事	監事
第1回 理事会	令和7年5月23日（金） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・令和6年度事業報告の承認 ・令和6年度決算の承認 ・福祉充実残額計算書類について承認 ・決算監事監査報告について承認 ・定時評議員会日程及び議案について ・次期評議員・理事・監事・選任解任委員 候補者の選定	5	1
第2回 理事会	令和7年6月14日（土） 16時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・理事長の選任 ・常務理事の選任 ・評議員選任解任委員の選任	5	2
第3回 理事会	令和7年9月9日（土） 16時00分～17時00分 たのしいどうHARUカフェ	・アンテナショップの物件取得について承認 ・定款変更について承認 ・就労選択「そらわーく」開設と「わくわくど う」事業所移転の承認	5	2
第4回 理事会	令和7年9月22日 書面による決議の省略	・経理規程の変更について承認 ・管理規程の変更について承認	6	2
第5回 理事会	令和7年12月13日（土） 16時00分～17時45分 岩見沢平安閣	・「わくわくどう」プリント機器リースについ て承認 ・アンテナショップ改修工事の業者選定 ・補正予算の承認 ・日中サービス支援型GHの建設について審議 ・職員の就業時間見直しについて審議	6	2
第6回 理事会	令和7年12月13日（土） 17時45分～17時55分 岩見沢平安閣	・基本財産の担保提供の承認 ・臨時評議員会の開催日程と議案について	6	2
第7回 理事会	令和8年3月13日（金） 15時00分～17時00分 西部連合会館 大広間	・補正予算の承認 ・令和8年度事業計画の承認 ・日中サービス支援型GH建設計画について ・令和8年度予算の承認 ・就業規則の変更について ・定時評議員会日程及び議案について	6	1

○評議員会の開催状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			評議員	理事	監事
定時	令和7年6月14日（土） 14時00分～16時00分 西部連合会館 大広間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度決算の承認</li> <li>・ 令和6年度福祉充実残額の計算の承認</li> <li>・ 福祉充実残額の計算結果の確認</li> <li>・ 決算監事監査報告</li> <li>・ 次期理事、次期監事の選任</li> </ul>	4	4	2
第2回	令和7年9月25日 書面による決議の省略	・ 岩見沢市2条西7丁目8-2所在の土地および建物取得に係る定款の変更について承認	8	—	—
第3回	令和7年12月26日 書面による決議の省略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本財産の担保提供の承認</li> <li>あかるいどう土地建物</li> <li>わくわくどう土地建物</li> </ul>	8	—	—



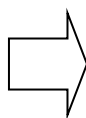
○評議員選任解任委員会の実施状況について

	日時/会場	主な内容	出席状況	
			委員	理事
第1回	令和7年6月3日（火） 18時30分～19時30分 たのしいどう 会議室	任期満了による退任者の承認 次期評議員の選任	3	2

■役員体制の状況について（令和7年6月14日から）

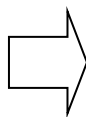
任期満了に伴う役員・評議員の改選を行ない、体制が下記の通り変更されました。

理事・監事	備考
理事長 橋 文也	
常務理事 橋 正樹	
理事 松田 愁司	
理事 神田 薫朋	
理事 鈴木 英男	
理事 寺尾 孝士	
監事 綱渕 秀幸	
監事 小嶋 孝之	



理事・監事 R7.6～R9.6	備考
理事長 橋 文也	
常務理事 橋 正樹	
理事 松田 愁司	
理事 神田 薫朋	
理事 鈴木 英男	
理事 寺尾 孝士	
監事 綱渕 秀幸	
監事 小嶋 孝之	

評議員 R3.6～R7.6	備考
鈴木 達美	退任
奥村 弘美	
小松 大記	
窪田 秀樹	
藤田 雅子	退任
眞田 雄三	退任
尾崎 美世子	



評議員 R7.6～R11.6	備考
奥村 弘美	
小松 大記	
窪田 秀樹	
尾崎 美世子	
玉置 広範	新任
犬飼 浩視	新任
谷 亨	新任
大浦 孝行	新任

■監査等の状況について

○監事監査の実施状況について

	日時	対象期間	担当監事	
			業務	会計
令和6年度第4期	令和7年5月14日	令和7年1月1日から令和7年3月31日	網渕 監事	小嶋 監事
令和6年度 決算	令和7年5月14日	令和6年4月1日から令和7年3月31日	網渕 監事	小嶋 監事
令和7年度第1期	令和7年8月27日	令和7年4月1日から令和7年6月30日	網渕 監事	小嶋 監事
令和7年度第2期	令和7年11月26日	令和7年7月1日から令和7年9月30日	網渕 監事	小嶋 監事
令和7年度第3期	令和8年2月17日	令和7年10月1日から令和7年12月31日	網渕 監事	小嶋 監事

○外部監査の実施状況について（よつば会計事務所）

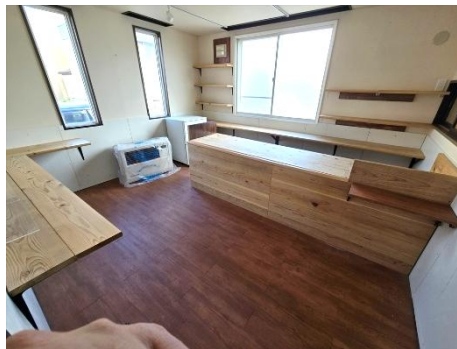
	日時	対象期間	内容
第1回	令和7年4月21日 9時30分～18時00分	令和6年4月1日から令和7年3月31日	令和6年度決算書 および明細書確認
第2回	令和7年5月10日 10時00分～16時30分	令和6年4月1日から令和7年3月31日	令和6年度決算書 および明細書確認
第3回	令和7年7月29日 10時00分～16時30分	令和7年4月1日から令和7年6月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第4回	令和7年10月28日 10時00分～18時00分	令和7年7月1日から令和7年9月30日	各科目残高確認 収支状況の確認
第5回	令和8年1月27日 10時00分～18時00分	令和7年10月1日から令和7年12月31日	各科目残高確認 収支状況の確認

■施設整備等について

「わくわくどう」およびアンテナショップの店舗用に土地と建物を購入し、屋根や外壁、内装等の工事をして開店に備えています。コロナ禍以来休業していたパン工房併設のカフェを内装リニューアルして再開しました。また、車両については、グループホームの支援用の車両を1台老朽化のため入替しています。「あかるいどう」が冬場の歩道確保のために除雪機を購入し、利用者、職員、その他歩行者の安全確保に努めました。

◇土地建物の購入

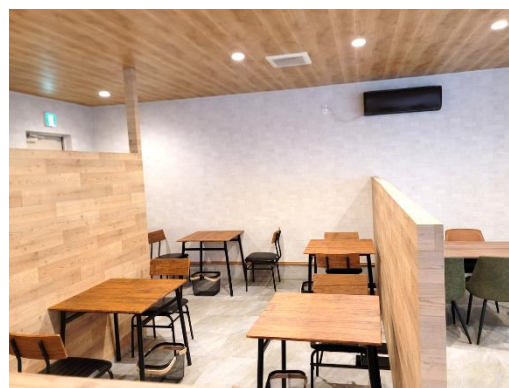
- ①岩見沢市2条西7丁目8番地2 土地面積 138.84 m<sup>2</sup> (約42坪)  
建物面積 1階 92.54 m<sup>2</sup>  
2階 95.64 m<sup>2</sup>  
延べ 188.18 m<sup>2</sup>  
価格 12,000,000 円



◇建物設備整備

- ①パン工房カフェ改修工事 (株式会社N3ライフ)

3,234,000 円



- ②グループホーム夏色荘外壁修理 (株式会社 広匠)

1,628,000 円

◇車両の入れ替え整備

- ①歩～夢支援用車両 (中古車) の購入

導入車種：トヨタ タウンエースバン (平成29年式)  
(AGH トヨタ札幌株式会社)

価格 1,490,180 円



## ②除雪機の整備

導入車種：ホンダ HSM1590i（ホクレン油機サービス）

価格 1,056,000 円



### ■事故報告の状況について

#### □利用者さんに係る事故

- ①服薬間違い 1 件
- ②転倒によるケガ 1 件

#### □車両による事故件数

- ①接触事故（単独） 2 件

### ■行事の実施状況について

法人全体が集まる行事については、普段あまり顔を合わせることが少ない利用者同士の交流として毎年たくさんの参加をしていただいております。外出の行事については、好きなメニューを選べるようにたくさんの企画を提案し、希望を聞いています。個人の好みや仲の良い人と出かけられる催しを行ないました。レクリエーション大会も復活し、みんなで体を動かして活動をしています。激しい運動は段々と難しくなってきましたが、健康増進や健康維持のためにも体を動かす運動は今後も継続していきたいと考えています。

日 時	行 事 名
令和 7 年 4 月 5 日	事業開始式・辞令交付
令和 7 年 7 月 6 日	地域交流祭
令和 7 年 10 月～11 月	おたのしみ小旅行 日帰り・1泊など選択制 円山動物園、小樽水族館、 ラウンドワン、ロイズタウン、 北湯沢 1 泊、美唄 1 泊、 十勝川温泉 1 泊 など
令和 7 年 11 月 15 日	レクリエーション大会
令和 7 年 12 月 20 日	利用者忘年会
令和 8 年 1 月 19 日	成人のお祝い

■ 各行事の様子



事業開始式



地域交流祭



おたのしみ小旅行



レクリエーション大会 (ソラリンピック)



利用者忘年会



二十歳のお祝い

■ 渉外活動（令和7年度）

渉外活動	職名	氏名
空知知的しょうがい福祉協会	理事	松田 愁司
	代表者	TD 橋・KD 山本 AD 松田・WD 成田 HM 中山
	幹事	廣岡 拓・中筋 朋弥
・岩見沢市障がい者福祉施策懇話会 ・岩見沢市障がい者サポート協議会	委員	橋 正樹

■権利擁護委員会活動（苦情解決・虐待防止・身体拘束適正化）について  
令和7年度の委員構成

- ・たのしいどう（受付担当者：佐藤有佳子）（第三者委員：小松 大記）
- ・きっちんどう（受付担当者：木村 清子）（第三者委員：小嶋 孝之）
- ・あかるいどう（受付担当者：石郷岡晴美）（第三者委員：小嶋 孝之）
- ・わくわくどう（受付担当者：齊藤 浩美）（第三者委員：藤田 雅子）
- ・歩 ～ 夢（受付担当者：山本 健心）（第三者委員：藤田 雅子）
- ・権利擁護委員会担当：石郷岡晴美

権利擁護の取り組みについては、苦情、虐待などの事案の有無について全体スタッフ会議で共有し、協議を行なっています。日頃の支援を振り返るセルフチェックリストを毎月全職員で行なっています。毎月行なっていくことで、研修の機会が少ないパート職員も日頃の支援について意識してもらう機会となりました。

セルフチェックリストの実施報告

実施月	内容
6月	日々の支援や自分の行動を確認。12項目を <input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> 十分ではない <input type="checkbox"/> できていない の3つから選択する方式
7月	12項目選択式。チェック項目の内容に変化を付けて実施。
8月	12項目選択式。チェック項目の内容に変化を付けて実施。
9月	12項目選択式。チェック項目の内容に変化を付けて実施。
10月	実際の支援現場における場面の想定コラムを付け、それを踏まえた12項目選択式係より集計結果のコメントを記載。
11月	今月のテーマ「利用者さんとの距離感について」それを踏まえた12項目選択式
12月	今月のテーマ「声掛けについて」それを踏まえた12項目選択式
1月	「利用者支援における声掛けについて」命令口調の声掛けを例に～です、～ますの基本の声掛けと対等な関係での声掛けの自由記載
2月	「利用者支援の場面ごとの対応について」例題の○×記載方式
3月	「作業の誘導や指示、完了の声掛け」例題の○×記載。今年度の振り返り自由記載

	日時/会場	主な内容	出席状況		
			管理者・課長	受付担当者	第三者委員
令和7年度 総括	令和8年4月22日（水） たのしいどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和7年度権利擁護活動報告</li> <li>・各事業所の苦情受付状況報告</li> <li>・権利擁護、虐待防止に向けて</li> <li>・身体拘束適正委員活動について</li> <li>・第三者委員からの質疑・意見</li> </ul>	2	5	3

## ■職員研修について

研修計画に則り、内部研修および外部への研修を行なっております。

	日時	研修内容	講師
第1回	令和7年4月17日（木）～ 令和7年5月1日（木）	「権利擁護について」	橘 総合施設長
第2回	令和7年6月28日（土）	「守秘義務について」	松田 施設長
第3回	令和7年7月19日（土）	「感染症対策研修会」 （熱中症対策・嘔吐物処理訓練）	医務・感染症対策部門 北野聖・木村清・齋藤浩
第4回	令和7年8月23日（土）	「権利擁護研修」（苦情解決の流れ・ セルフチェック・意思決定について）	権利擁護部門 石郷岡・木村清・佐藤有
第5回	令和7年10月25日（土）	「温故創新 明日へ向かって」	橘 文也 理事長
第6回	令和7年11月29日（土）	「防災対策研修会」 （BCP・ローリングストック）	非常災害対策部門 中山・渡辺
第7回	令和7年11月29日（土）	「全道知的障がい関係職員研究大会 フィードバック研修」	権利擁護部門 齋藤浩・佐藤有
第8回	令和7年12月27日（土）	「感染症対策研修会」 （結核対策・嘔吐物処理訓練）	医務・感染症対策部門 横塚栄・黒田
第9回	令和8年3月21日（土）	「法人理念について」（障がいの理解）	橘 総合施設長

## ■地域公益的活動について

市の河川敷清掃イベントへの参加、町内会の子供盆踊りの出店参加、赤い羽根共同募金活動、ちいき食堂の開催などを行ないました。ちいき食堂については、夏場に屋外にてホットドックなどのアウトドア料理にも挑戦しました。



■ 仲間の施設・事業所との交流及び販売促進・内需拡大への取り組み

仲間の施設・事業所との交流や販売促進の取り組みとして、今年度も数多くの施設への出張・販売を実施しました。お互いの商品を売買する等、内需拡大や商品力向上に繋がる取り組みとして活動しました。



6月30日～7月1日	全国就労部会研修会販売
7月12日	社福) えぼっく祭
9月6日	社福) 岩見沢清丘園コリーナ祭
9月20日～21日	社福) 新冠ほくと園祭
9月23日	社福) 報恩会祭
9月28日	社福) 北海道光生会ステップ祭
11月6日～7日	社福) 青葉仁会研修販売会
11月8日	社福) ナザレの村バザー販売会
11月8日	社福) 青葉仁会研修販売会
11月6日～7日	社福) 青葉仁会研修販売会
11月25日～26日	チカホふくしの市 販売会

■利用者現況調べ（令和8年3月31日現在）

① 年齢構成（単位：人）

	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳～	合計人数
男性	1	13	26	14	2	5	0	61
女性	0	9	17	8	3	1	0	38
総数	1	22	43	22	5	6	0	99

平均年齢：男性 37.2歳、女性 36.1歳、全体 37.1歳

②障害支援区分

	なし	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	平均区分
男性	15	2	8	13	13	7	3	3.52
女性	4	1	5	2	12	8	6	4.15
総数	19	3	13	15	25	15	9	3.79

■工賃の支払い状況（単位：円）

①工賃支給比率

事業名	資金収入額(円)	工賃総額(円)	のべ支給人数(人)	支払比率
たのしいどう	19,018,823	8,007,500	444人	42.1%
きっちんどう	13,592,851	6,076,000	205人	44.7%
あかるいどう	913,925	757,300	244人	82.9%
わくわくどう	18,157,716	6,736,800	186人	37.1%
全事業合計	51,683,315	21,577,600	1079人	41.7%

②利用者工賃額

事業名	工賃総額(円)	のべ支給人数	平均工賃額	うちB型のべ 工賃支給人数	うちB型事業平均
たのしいどう	8,007,500	444人	18,034	252人	30,966
きっちんどう	6,076,000	205人	38,070	205人	38,070
あかるいどう	757,300	244人	3,104		
わくわくどう	6,736,800	186人	41,585	186人	41,585
全事業合計	21,577,600	1079人	25,198	643人	36,874

## 令和7年度 たのしいどう 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

令和7年度は、館内での過ごし方について昼休憩時間や休憩場所などを各班毎に分けていましたが、コロナ流行前の形式に戻して利用者さん同士で楽しく関わり合いながら過ごして頂きました。

法人での行事取り組みも全事業所の方達が交流しながら過ごせる機会となっています。外出行事では、それぞれのニーズに答えられるように考慮し、少人数で楽しめるように日帰り旅行と宿泊旅行を企画し実施しました。

また今年度より毎月1回、音楽活動として希望者の参加で外部から講師を招いて取り組みを行ない、各事業所の皆さんが顔を合わせ触れ合う機会にもなりました。楽しみが増えることにより、利用者さんの利用率や、作業・活動へのモチベーションに繋げる事が出来たと感じています。

生産活動では、クイリングやウエス作業等の既存の作業にあまり携われない方の作業として、古切手を額面ごとに仕分け、台紙へ貼り付ける作業にも挑戦しています。

コロナ禍により休止していたパン工房併設の **HARUCAFE** を7月にリニューアルオープンし、周知活動として毎月の目玉商品やフェアのチラシを作成し、ポスティングを行ない集客に繋がるように力を入れました。一つずつの仕事を丁寧に取り組む事や、継続的な作業の取得で、積み重ねは大きな成果や達成感、仕事に対する遣り甲斐や工賃へと繋がっていくことを感じています。

また、地域公益活動の一環として、クリーン作戦を実施し利用者さんと事業所周辺のごみ拾いを行ないました。

市内の中学生の職場体験実習や、専門学校での施設実習、他施設からの見学依頼も受けています。人と関わる機会が増えたことは、利用者さんにとっても職員にとっても嬉しく、笑顔も増え、充実した1年であったと感じています。

### 2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型	定員 25名	現員 21名
■ 生活介護事業	定員 15名	現員 17名
■ 短期入所事業	定員 2名/日	

### 3. 令和7年度の利用状況

#### ■たのしいどう全体（定員40名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37	77.1%
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
延利用回数	761	755	761	799	689	737	795	706	765	723	666	760	8,917	

平均実利用数 31.7名（小数点第2位以下切り上げ）

現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

#### ■就労継続支援事業B型（定員25名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	70.6%
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
延利用回数	437	424	431	462	401	420	459	401	439	409	387	434	5,104	

平均実利用数 17.7名（小数点第2位以下切り上げ）

現員数が、定員数に満たしていないため、利用率は低くなっています。

#### ■生活介護事業（定員15名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	88.0%
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
延利用回数	324	331	330	337	288	317	336	305	326	314	279	326	3,813	

平均実利用数 13.1名（小数点第2位以下切り上げ）

てんかん発作の頻度が増え、通所日数が半減した方が1名おり、昨年度よりも利用率は低くなっています。

## ■短期入所事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
延利用回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

今年度は短期入所事業の利用はありませんでした。

### 4. 取組みの概要

□事業所内での生産活動（取り組みの詳細は就労事業報告参照）

#### ・パンと菓子の製造販売、カフェ運営

～パン工房では、毎月の目玉商品となるパンの商品開発や焼き菓子、ギフト販売など新商品の販売に力を入れ、一人ずつの作る楽しみを増やしています。また、新たな取引先も少しずつ増えており、受注納品や冷凍発送など売上へと繋がっています。また、イベント販売用で特注パンの注文など、春いろの商品を紹介できる機会も増えています。様々な事業所のお祭りや、札幌駅地下歩行空間などの出店販売にも参加する機会を頂いております。

#### ・利用者昼食、グループホーム食事製造委託作業

～利用者さんの食べたい物リクエストに応じながら、季節に応じた旬の食材を取り入れて使用し、栄養バランスを考えたメニューを提供しています。月1回の選択メニューでは、利用者さん同士の会話でも話題が出ており、楽しみにされている様子でした。季節のイベントに合わせて、食堂の装飾や雰囲気作りも利用者さんと一緒に行ない、食事の楽しみをより増やせるよう工夫しています。献立表をみて、通所する楽しみの一つとして、食育にも繋がるよう今後も食の充実、満足度を高められる様、心掛けていきたいと思えます。

#### ・紙工芸品と受注作業

～しめ飾り製造に重点を置いた紙工芸品作りでは、季節に応じた製品作りにも力を入れ、利用者さんの技術向上と作る楽しみを増やしています。一つずつ丁寧に製品を作り上げることで、様々な人の目に触れ、売上にも繋がる事で、利用者さんのモチベーションも上がっています。受注業務では、JAL 航空機で使用するマドラー袋詰め作業、4つの地域の公園清掃、ポスティング作業、新たに切手の仕分け・台紙貼り作業にも取り組みました。

外に出での取り組みは、気候や天候に左右され大変な作業でもありましたが皆さん、やりがいをもって取り組まれていました。ウエス製造においても、定期的にご注文いただける顧客が増え、売上の増加に繋がっています。一人ひとりが役割を担えるよう工程を細分化し、携わる事で、やりがいや達成感に繋がっています。

#### □ やりがいや楽しさを創出する活動

・作業活動のほか、季節に応じた制作や映画鑑賞等、多様な余暇支援を実施しています。週末の午後には余暇活動の時間を設け、心身の休息や利用者さん同士の交流を楽しんでいただけるよう取り組んでいます。また、制作した作品は館内に掲示し、鑑賞を通じて楽しめるよう工夫しています。

#### ■ 権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動として、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施しています。また、今年度も「令和7年度障害者虐待防止・権利擁護指導者養成研修」の動画視聴を実施し、習熟度確認テストをサビ管のみ行なっています。

障がい特性や年齢も様々な方がいる中、利用者さん同士の行き違い等による、トラブルや日々の細かな対応が求められました。その際は、スタッフ朝会、会議時のケース報告で日々話し合い、スタッフ間で支援上の課題を共有しながら、利用者さんへの声掛けや対応をしています。また毎月セルフチェックを全職員へ実施し振り返りを行ないました。

#### ■ 苦情解決

今年度の苦情・要望受付は0件でした。利用者さん本人から、相談受付箱に投函されていませんが、利用者さんが抱える不安や悩みを日々聞き取り、話しをする機会を設け、利用者さん一人ずつが過ごしやすく、通しやすい環境を整え、職員がすぐに相談、解決へと応じられる支援が出来ればと考えています。

#### ■ 感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから、利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。体調不良者は、食品製造に入らない（持ち込まない）を徹底し、利用者さんや職員の体調管理と共に衛生面の確保に変わらず配慮しました。毎朝の検温、館内の消毒等、日中の検温も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めました。通所後の健康状況の変化の把握、発熱時の通所判断の検討や早退などを、ご家庭にも協力を頂きながら進めています。

#### ■ 災害対応・事故対策

今年度の1回目は、地震発生後に火災を想定した通報、避難とダミー人形を使用し要救助者の救出訓練を行なっています。避難場所の駐車場で、利用者さんと職員の消火訓練も実施しています。2回目の訓練は、火災を想定し

た自主訓練を利用者さんと職員のみで実施しています。地震や火災発生時の注意点や、避難経路、避難口の判断、優先順位などを利用者さんへ説明し、消防署よりお借りしたDVDを鑑賞しています。小さな火から大きな火災へ繋がる事や動きを想定、イメージすることの大切さを改めて再認識し、避難の対応について、学ぶ機会となっています。

■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに現場長や事業班の職員が支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案し、支援の統一を行なっています。

■健康管理

- ・今年度は、7月に健康診断を実施しています。

■工賃支払い状況

就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	21	21	21	21	21	21
総支給額	394,500	353,300	347,300	406,800	365,800	337,000
平均額	18,786	16,824	16,538	19,371	17,419	16,048

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	21	21	21	21	21	21	252
総支給額	397,600	409,200	885,700	403,400	340,700	1,935,900	6,577,200
平均額	18,933	19,486	42,176	19,210	16,224	92,186	<b>30,966</b>

□生活介護事業

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	16	16	16	16	16
総支給額	125,200	110,200	107,600	129,000	115,800	95,000
平均額	7,825	6,888	6,725	8,063	7,238	5,938

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	16	16	16	16	16	16	192
総支給額	121,300	126,100	128,600	122,000	102,200	147,300	1,430,300
平均額	7,581	7,881	8,038	7,625	6,388	9,206	<b>8,962</b>

□事業所全体の平均工賃額 ¥ 21,526 / 月 (37名)

5. 課題

年々、利用者さんの年齢や体力面の衰えが見られており、下請作業で新しい作業種に取り組み始めましたが、本人のペースを大切にしながら継続し徐々に上達出来る様に工夫した支援が必要です。また売上増を目指してウエス販売先の新規顧客獲得にも力を入れていきたいと考えています。

材料費や資材の高騰、水道光熱費の値上げなど、支出が増え続けており、工賃の確保が厳しい現状も、引き続き課題となります。今後も、社会情勢に応じて、商品の値段見直し、下請業務の価格交渉等、より工賃に繋がるような取り組みを行なう必要があると感じています。

また、昼食製造班では利用者さんの空き時間が出来てしまう事から、収益にも繋がる新たな作業種の創出が急務となっています。

小さな結果も積み重ねにより、成果は出てきますので、今後も現状維持しながら、新しい事も取り入れつつ利用者さんが、自分の役割に自信を持ち、安心して通える居場所作りも大切に、楽しみや達成感が感じられるような支援を今後も強化していきたいと考えています。

## 就労事業の報告

### ■事業班名：レインボー&クリアー

#### 1. 取組みの概要

クイリング製法によるしめ飾りの制作や、季節・イベントに応じた製品づくり、ウエス製造に取り組む「レインボー班」と、企業との委託による各種下請け作業や地域の公園清掃業務に取り組む「クリアー班」の2班に分かれて活動を行なっています。

「レインボー班」のしめ飾り制作では、毎年同一のデザインとならないよう、パーツについて意見を出し合いながら工夫し、鑑賞して楽しめる製品づくりを目指しています。ウエス製造においても、継続的に受注いただく顧客の増加に加え、新規顧客の紹介につながる機会も増えており、売上の向上に繋がる事が出来ていました。



ウエス作業



クイリング製造



クイリング作品

「クリアー班」では、JAL 航空機で使用するマドラーの袋詰め作業の委託や、南空企画様からのチラシ折り・ポスティング等の下請け作業に取り組んでおり、市内の一部地域を分担しながら実施しました。また、新しい作業として郵便局で使用する切手の仕分けや台紙貼り作業にも取り組んでいます。個々の特性に応じた作業工程を設定し、それぞれが役割を担いながら作業を進める事が出来ました。さらに、毎年受託している公園清掃では、「空知の風」のロゴ入りポロシヤツやジャンパーを着用し、4地域の公園清掃に取り組みました。



切手仕分け作業



マドラー袋入れ作業



ポスティング作業



公園清掃

## 2. 成果

今年度は、新規作業を含め多種多様な作業委託があり、さまざまな環境での作業や取り組みが、利用者さんの自信や意欲の向上に繋がったと感じています。クイリング製法による製品づくりを得意とする方や、ウエスの裁断・ごみ取り・計量に安定して取り組む方など、それぞれの強みを活かすとともに、新たな作業への挑戦意欲も高まり、積極的に作業へ取り組む姿が見られました。

また、作業工程への参加が難しい利用者さんに対しては、安定した活動機会の確保を目的に、年賀状の冊子切りやメモ帳作り、塗り絵や貼り絵、さをり折り等、一人ひとりの状況に応じた内容を提示し、活動の一環として取り組みました。

## 3. 課題

企業や顧客のニーズに沿って事業を進めていく事の大切さを感じながら取り組んできました。一方で、下請作業においては、継続した作業や習得に時間を要する方、不安を感じやすい方もおり、利用者さんの皆さんが安心して取り組める環境づくりや支援の必要性を感じています。

また、心身の安定は作業への取り組み方や周囲への影響にも繋がる為、一人ひとりが落ち着いて過ごせるよう、それぞれに合った支援を心がけていきたいと思えます。

### ■事業班名：ぱん工房春いろ

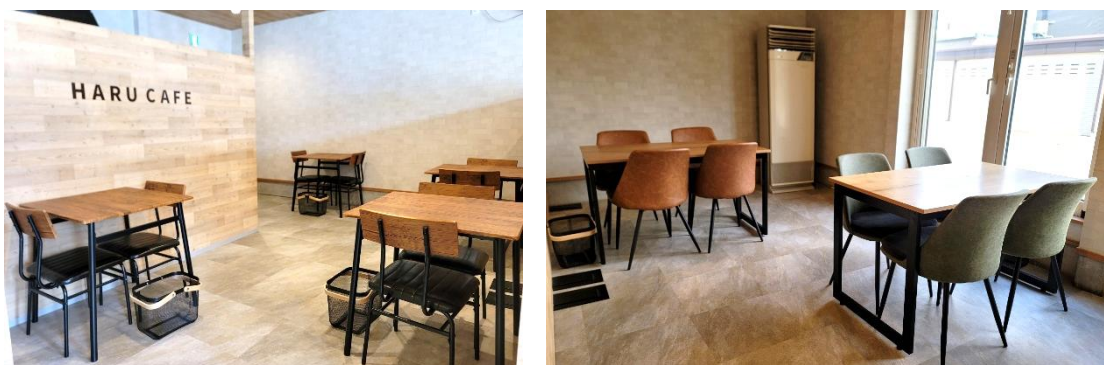
#### 1. 取組みの概要

7月に店舗とカフェのリニューアルオープンを行ない、白い生クリームパンや手作りプリンなどを店舗の目玉商品として置く中で、たくさんのお客様にお買い上げいただいています。また、様々なイベントの再開や受注数、販売数も増えています。新たな取引先では、新篠津幸生園や新篠津福祉会、市内の高齢者グループホーム等へパン納品を始めました。キッチンカー販売などの注文に応じて配達、冷凍発送などが増え、少しずつではありますが売上へと繋がっています。

また、地元の飲食店やお祭り、イベント販売するために使用用途に合った特注パンの製造の依頼も増えており、個別に対応を行なう事で信頼を得て継続した取引に繋がったと感じています。

新商品開発にも力を入れ、皆で意見を出し合いながら様々な試作を繰り返し進めています。フィナンシェやプリン類も商品の形状を変更し、見栄えや単価を変えて売上アップに繋がる様に工夫も行ないました。

また、夏のお中元やクリスマス、バレンタイン等、期間限定ギフトや商品も利用者さんのご家庭に紹介させて頂き、ご協力頂いております。仲間の事業所からも、ロールケーキや菓子セット等、様々なイベントに合わせて受注が入り、売上にも繋がっています。パンやロールケーキも道内、道外の事業所から、定期的に注文を頂き、冷凍発送も継続しています。その他、繋がりのある施設やイベントでの販売会にも参加し売上に繋がっています。



リニューアルしたカフェ店内

## 2. 成果

カフェのリニューアルオープンをしたことで、カフェ利用のお客様が徐々に増えています。また、店舗の新商品の入れ替え等により、パンの売上が伸びています。イチオシの、キタノカオリ食パンのリピーターも毎月、購入しに来てくれるお客様や、市外からも食パンを購入しに来られるお客様もおり、道産小麦にこだわり、あん食パンやチョコ食パンも開発しました。

また、新たに保育園や飲食店などからの注文依頼や、学校バザーなどでのパン納品など、今までの顧客から新しく製造の依頼なども徐々に増えており、都度サンプルを作り要望に応じて希望に沿ったパンを納品し、積み重なる売上が春いろの支えともなっています。



定期的に新商品へ入れ替えしている  
パン商品



あん食パンとチョコ食パン

焼き菓子製造も、「カリクロ」や「フィナンシェ」「プリン」など人気の商品は生菌検査を実施し、「カリクロ」等は賞味期限を2か月まで延長する事ができ、遠方での販売もお勧め出来るようになりました。また、利用者さんと共に販売に行く中で、沢山の方に商品を購入して頂き、売りに上げに繋がっています。販売は、利用者さんの自信や楽しみにもなっていると感じます。



お菓子セット商品



バレンタイン限定商品



Xmas 菓子セットの大量注文

### 3. 課題

食品表示法やHACCPの取り組みも継続して日々進めています。異物混入やアレルギー対応の商品なども十分に配慮しながら取り組んでいますが、安全にお客様へ届けられているか等、適切なチェック体制作りが今後もとても大切だと感じています。原材料や資材、原油の高騰により値上げを行ないましたが商品の価格や規格の見直し等も継続して必要と感じています。また、新たな納品先の開拓も目指しながら、現在注文頂いている納品先を大切に、チームで協力しながら売上へと繋げていけるよう努力していきたいと思えます。

#### ■事業班名：さんくつく

##### 1. 取組みの概要

さんくつくでは、たのしいどうへ通所されている方の昼食製造作業と、グループホームの朝食製造・食材の検品作業を行なっています。昼食製造では利用者さんに喜んで頂ける献立を取り入れながら、バランスや季節感も考慮し、食への関心が高まることを目指しています。また、選択メニューを取り入れながら、楽しみを感じて頂けるように試行錯誤しながら取り組んでいます。グループホームの朝食製造では、メニューに応じて調理、食数に合わせて計量・分配し、正確に終えられる様に心掛けています。また、衛生管理に気を付けながら、安心して食べて頂けるよう、食品の管理や製造を皆で協力しながら、取り組んでいます。



作業風景



お楽しみ選択メニュー（からあげ）



## 2. 成果

昼食製造では、利用者さんのリクエストに応じたメニューや、手作りデザートを献立に取り入れる事で、作る楽しみも意識して取り組んでいます。毎月1回のお楽しみメニューでは、利用者さんのリクエストされたメニューや、選択する楽しみを取り入れながら食事出来るように心掛けています。食材購入時にも、野菜や主菜など既製品を購入せず、一つずつ手作りすることで、利用者さんの作業スキルの向上や様々な作業経験を重ねられる機会にもなっています。作業の中では、利用者さんのペアリングに考慮し、作業場所を2か所に分けて活用することで、働きやすい環境の配慮や時間の工夫等も行なっています。また、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の記録は引き続き行ない、より改善へと繋がる様な取り組みも行なっています。

## 3. 課題

衛生管理の面で、利用者さんへの声掛けや確認は今後も強化していく必要があると感じています。献立によって利用者さんの1日の作業の流れも変化してくるため、1人1人の作業が確保出来るような仕込み量や作業工程を考え、組み合わせの工夫や支援が大切だと考えています。利用者さんの調理技術が高まり、色々な経験が重ねていける様、今後も怪我などに配慮しながら取り組みが必要です。また、利用者さんの空いた時間に取り組める新しい作業種の創出、検討が必要です。

### ■データ（たのしいどう）

1. 製造販売事業	売上 1 8 3 2 万円	工賃還元額	7 3 3 万円
2. 下請加工事業	売上 6 9 万円	工賃還元額	6 6 万円

## 令和7年度 きっちんどう 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

令和7年度は、法人内の食事提供や肉巻きおにぎり等の冷凍食品製造に力を入れ、就労継続支援事業B型20名定員で事業を開始しています。

就労事業の下請事業では、仲間の施設からの紹介で、タコ入りのコロッケを製造し、冷凍で発送する業務を昨年引き続き頂いています。依頼のあった冷凍から揚げるまでの工程や温度も記録し、お伝えする事が出来ています。製造販売事業では、利用者さんの昼食やグループホームの夕食のおかずを出来るだけ手作りで行なう事や要望のあったメニューにも取り組み、調理技術の向上や作る楽しさを増やしています。

利用者さんが楽しみにしている行事では、全事業所の利用者さんが集まって、事業開始式やレク大会、忘年会も実施出来ています。久しぶりに顔を合わせることで、話も弾み、たくさんの笑顔を見ることが出来ています。宿泊旅行や日帰り旅行、外出イベント等も行ない、余暇も楽しむ機会が増え、実りある一年となりました。

### 2. 実施事業

■ 就労継続支援事業B型 定員20名 現員17名

### 3. 令和7年度の利用状況

■ 就労継続支援事業B型単独型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	18	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	16	16	66.3%
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
延利用回数	340	331	334	352	309	329	339	286	303	299	285	324	3,831	

平均実利用数 13.3名（小数点第2位以下切り上げ）

4月より、北海道札幌伏見支援学校から新しい利用者1名が加わりましたが、5月には退所されています。また、10月より、わくわくどうへ1名異動し、きっちんどうと併用利用されています。

#### 4. 取り組みの概要

##### □事業所内の生産活動

法人内の昼食製造やグループホームの夕食製造を主とした活動を行なっています。また、冷凍食品製造にも力を入れ、新たな商品開発を行なっています。

##### ■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動としては、年度初めに北海道知的障がい福祉協会にて行なわれている「人権侵害ゼロの誓い」の署名を実施。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせも実施。また、事業所内でガイドブックを使用しながらパート職員を含め、小単位で権利擁護について、周知を行ない情報の共有を進めました。特に新しい職員に対しては知的に障がいのある方を支援するための行動規範や、特性による個別な関わり方については個別対応して伝えています。

##### ■苦情解決

苦情受付については、令和7年度0件となっています。

親御さんからの相談や要望などは、口頭で受け付けがありました。また、日々の利用者同士のトラブルや対人関係の悩みなどは、利用者からの相談を受け付け、その場で都度対応しています。利用者からの苦情に繋がる相談段階の話にしっかり耳を傾け、今後も支援を行なっていきます。

##### ■感染症対策

食品の製造販売を行なっていることから利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施しています。毎月行なっている検査から食中毒を起因するような保菌者はいませんでした。

新型コロナウイルスでは、医師の診断でなくても、抗原検査の結果で判断可能となり、法人で用意された抗原検査キットは効果を発揮しました。発熱後の利用再開、勤務の再開において、抗原検査を実施できたことにより、陰性を確認した上で、感染予防を実施し、事業所でのクラスターなどを引き起こすことなく過ごすことができています。ご家庭でも体調管理にご協力いただき、体調不良の際には、通所前にご相談の連絡を頂いたり、早めの受け入れをして頂いたりなどし、新型コロナだけでなく、インフルエンザなどの感染症が事業所で蔓延することはありませんでした。

## ■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しました。1回目は、消防署にも立ち合いして頂き、直接避難時の対応、火災だけではなく、地震時の避難の注意点等を講話頂いています。調理業務を主に活動しているため、火の取り扱いや掃除の大切さ等も訓練と合わせて学ぶ機会としています。

## ■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

## ■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・利用者の個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。個別支援計画原案をもとに支援計画の支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論し、作成に努めています。
- ・ケース会議・・・利用者について担当より報告し、事例検討を実施。支援方針を立案、共有しています。

## ■健康管理

今年度は、7月に健康診断を実施しています。40歳以上の方で、市の検診を受ける方も出てきています。

平均年齢が40歳に近付いてきていることもあり、健診結果による必要な医療受診は勿論、要観察についてもご家庭にも協力を得ながら、日頃からの生活習慣や食事の摂取量についても気を配るようにしています。



避難訓練の様子

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	18	18	17	17	17	17
総支給額	417,200	387,300	373,700	414,500	400,700	353,600
平均額	23,178	21,517	21,982	24,382	23,571	20,800

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	17	16	17	16	16	16	205
総支給額	406,200	370,100	962,900	379,600	341,500	1,268,700	6,076,000
平均額	23,894	23,131	56,641	23,725	21,344	79,294	<b>38,070</b>

□事業所全体の平均工賃月額 ¥38,070月（平均13.3名）

5. 課題

令和7年度に入ってから食材の高騰が止まらず、食材選びやメニューの工夫等も行なっております。しかし、材料費のコストが嵩み、利益が少なくなっているのが現状です。生産活動を実施継続していく中で、社会状況の変化に合わせていくことはとても大変なことです。しかも、障がいのある方たちを支援しながらの生産活動となれば尚のことです。利用者さんの工賃を確保するために必要な売上を目指すことと障がいのある方たちへの支援のバランスを取ることは我々の大きな課題です。



奈良県で行われた食モノネットや仲間の施設での出店の様子

## 就労事業の報告

### ■事業班名 てのひら

#### 1. 取組みの概要

製造販売事業班では、法人内の利用者昼食提供とグループホーム夕食提供を主に、バランスの良い手作り料理や、調理の楽しみを増やせるような取り組みを心掛けながら進めています。また、利用者さん一人ずつが身に付けた調理技術を活かせる機会を増やせる様支援しています。



昼食製造と盛り付けの様子

冷凍食品製造として、全国の仲間の施設に購入して頂いてきた「豚の肉巻きおにぎり」や、昨年度から販売している「鳥神飯」に加え、今年度は岩見沢産の玉ねぎを使った「玉ねぎゴロツと餃子」を新商品として開発しています。11月に食ものネットで展示させて頂いたり、年末にはお歳暮のソラカゼギフトとしてご紹介させて頂き、少しずつ新たなきっちんどうのオリジナル商品を召し上がって頂く機会や知って頂く機会が増えています。



新商品！「玉ねぎゴロツと餃子」



「玉ねぎゴロツと餃子」製造様子

## 2. 成果

法人内の食事提供を行なうことで、安定した製造量を確保でき、製造の中で一人ずつが担う調理技術の幅も広がっています。新商品の冷凍餃子製造により、餃子を包む等の調理技術向上や新たな作業種を増やすことに繋がりました。現在も続けている新たな冷凍食品の開発で、味や形など試行錯誤を繰り返しながら新たな取り組みへの挑戦が行なえることは、一人ずつの遣り甲斐や成果にも繋がっています。お中元やお歳暮でソラカゼギフトとして冷凍食品を販売したことで売上が増え、利用者さんの工賃に繋がっています。

## 3. 課題

B型事業所として食品製造を主として活動することで、1日を通して製造作業に取り組むことが難しい利用者さんの作業や、気持ちの面から集団での作業が難しい場合の活動を見出すことに苦戦しています。近年続いている物価高騰により、昨年度に続きお米の価格高騰があり、11月よりお米の購入先を変更し、少しでも材料費を抑えるために対応しています。昨年度止むを得ず冷凍食品の「豚の肉巻きおにぎり」の価格を値上げしたところですが、前述したお米の価格高騰を受け、今年度も「豚の肉巻きおにぎり」と「鳥神飯」の値上げをせざるを得ませんでした。食事提供の価格は、日々の利用者さんの負担にも直結するため、材料費が高む一方で、利益が少なくなる状態が続いています。収入に繋がる新たな冷凍商品の開発を今後も進め、工賃維持が出来るような方法を見出していくことが課題となります。



ソラカゼギフト



岩見沢農業高等学校と  
一緒に取り組んだ  
「う米コメプロジェクト」の  
おにぎり製造様子



## 1. 取組みの概要

下請加工事業班として、自動販売機の管理の実施、昨年度に引き続き、日高町商工会よりの依頼で、日高町でとれた「じゃがいも、昆布、タコ」を入れたコロッケを冷凍食品として製造、納品して欲しいとの依頼を受け、9月～12月の期間限定で取り組んでいます。



## 2. 成果

今年度もタコロッケ製造の下請け作業を頂き、全部で7800個納品させて頂いています。地道な作業ではありましたが、完成していく工程を目にすることで、利用者さんの楽しみにもなり、新たな作業に取り組むことは、利用者さんの意欲にも繋がったと感じています。また、昨年度の製造での経験を活かし、日々の作業の中で、取り組みやすい製造量や作業手順の共有により、以前に比べて負担が少なく取り組むことが出来ています。

## 3. 課題

下請け作業は、季節や時期の限定作業が多く、年間通して予定が立てづらく、継続や収入見込みも難しいのが現状として課題を感じます。昨年度まであったひまわり箱折り作業は今年度ありませんでしたが、タコロッケ製造により売上に繋がっています。今後も依頼して頂ける様、引き受けた仕事に対する誠実さや可能な限り相手のニーズに応える等、信頼して頂ける様努める必要があると感じています。様々な経験をさせて頂けることは、利用者さんにとっても良き機会ともなり、モチベーション向上にも繋がるため、機会があれば来年度も色々な事へ挑戦し、収入にも繋げていけたらと感じています。

### ■ データ

1. 製造販売事業	売上	1329万円	工賃還元額	: 576万円
2. 下請加工事業	売上	34万円	工賃還元額	: 31万円

## 令和7年度 あかるいどう 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

令和7年度あかるいどうでは、利用者さんの支援度の高まりに伴い、一層の介助・介護、見守り等の支援に丁寧に取り組んできました。運動器具の導入や外出徒歩の機会を増やして健康増進にも力を入れ、岩見沢市の保健師を招いて健康維持のための体の動かし方について職員が学ぶ機会を設けました。

利用状況では、4月に20名でスタートし、8月に新規女性利用者を迎えて現員は21名となっています。特に今年度あかるいどうでは、利用者さん個別の心身やご家庭の状況に配慮し、利用日数の希望など多様性を受け入れていくことで、通いやすく利用を継続しやすい環境作りを心掛けました。

1年間の活動はこれまで同様にアート制作に取り組んでいます。アーティスト契約を結んだ10名の利用者さんも、活動科目としてアートを選んでいる利用者さんも同様に利益が得られるように、契約書や収益分配規定を整えて、これから先もアートの世界で活躍される皆さんの権利を護る取り組みを進めました。また、写真・動画投稿サイトには、利用者さんが制作した多くの芸術作品を世界に発信し、ファン獲得のための取り組みも続けました。

週末に楽しんでいる余暇活動も、様々な道具や玩具を使いながらお互いにコミュニケーションを図ったり、体を動かすなどして健康維持に取り組んだことで利用者の皆さんが通う楽しみの一つとなりました。また、職員が学んだことを利用者支援に活かす取り組みも進め、活動や生活するうえで必要な選択カードやスケジュール表など、支援に必要なツールが事業内に増えました。

### 2. 実施事業

■ 生活介護事業 定員20名 現員21名

### 3. 令和7年度の利用状況

■ 生活介護事業所単独型（4月～定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	20	19	18	19	21	21	21	21	21	21	21	21	21	80.7%
開所日数	25	24	25	26	22	24	26	23	24	23	22	25	289	
延利用回数	408	368	360	383	360	406	436	381	397	391	359	418	4,667	

平均実利用数 15.5名（小数点第2位以下切り上げ）

#### 4. 取組みの概要

##### □事業所内での活動

###### ・にこにこ班

年間を通じて、絵画などの創作活動に力を入れて取り組み、北海道を含めた全国各地の展覧会へ数多くの芸術作品を応募・出展することができました。入賞や受賞する作品も少しずつ増えており、作家の皆さんの創作へのモチベーションアップや次の展覧会にチャレンジする気持ちに繋がっています。事業所内では、国道に面した窓をギャラリーに見立てて、事業所の中から外へ向けての作品展示を継続し、道行く市民の皆さんに好評を頂きました。また、Instagramでの作品投稿も回数を重ねていくことで徐々にファンが定着し期待が高まっているように感じています。



Instagram投稿済の作品（一部抜粋）

###### ・さんさん班

利用者さんの特性に応じた活動の創出と社会参加の一環として、企業の下請け作業に取り組みました。今年度は、シール貼りを請け負っている企業から新商品の箱折り作業の依頼があり、先方のレクチャーを受けながら希望する利用者さんと取り組みました。市内のチラシ配りのポスティング作業では、普段下請け作業に携わらない利用者さんと共に健康増進を兼ねて事業所周りを歩いています。また、法人内の行事ごとの賞状制作や記念品制作は下請けとしてさんさん班で請け負いました。

##### □楽しみを中心とした活動や運動

###### ・活動支援

週末の木曜日と金曜日の午後からの時間を使って、余暇活動を実施しました。映画鑑賞や玩具を使ったミニゲームで楽しんだり、器具を使って足を動かす運動やラジオ体操、散歩などを行なって、楽しみを感じてもらいながら機能維持や体力維持を目的とした活動も進めました。

#### ■権利擁護について

令和7年度は法人として権利擁護についてより一層真摯に取り組みを進めました。年度初めには法人全職員を対象とした権利擁護と障がいの理解についての法人研修があり、それを皮切りに1年間を通じて、自身の支援を振り返るチェックシートを毎月実施しました。また、権利擁護の研修を受けた職員は、次月の職員会議でフィードバックを実施し、権利擁護の意識を高める取り組みを続けています。細やかな研修の実施とチェックシートにより、職員の権利擁護への意識の高まりがみられています。年度初めには北海道知的障がい福祉協会にて行なわれる「権利侵害ゼロへの誓い」の署名を実施。日本知的障害者福祉協会の倫理綱領をスタッフで読み合わせ、意識の向上を図りました。また、職員会議では、「虐待防止」「身体拘束」「意思決定」の三項目について取り組みや支援を毎月報告し、不適切な支援が無かったか、職員全体で検証を行なっています。

#### ■苦情解決委員会

令和7年度、受付件数は0件となっています。相談受付箱による提出はありませんでしたが、利用者さんの困りごとやトラブルは口頭にて毎日のように相談がありました。都度早期の解決に向けての対応を心がけ、苦情には至りませんでした。言葉で訴えができない方についても、常に体調の確認や様子を見守り、作業や活動、生活している中で感じる疑問や悩み等をくみ取るよう対応しています。

#### ■感染症対策

事業所内では、うがい・手洗いの徹底や定時の検温等、感染予防の対策を継続して取り組んでいます。令和7年度は特定の感染症のまん延は確認されませんでした。風邪症状が出ると同室の利用者さんに感染しやすい傾向がありました。また、利用者さんは特に抵抗力が弱いために、対策のために事業所を休まれる方も多かったです。マスクの着用やうがい・手洗いなど、自ら感染予防することが難しい方も多く、予防対策の難しさを痛感しました。

#### ■災害対応・事故

法人として防災対策研修会を実施し、BCP（事業継続計画）とローリングストックについて学びました。また、事業所としての避難訓練を消防署の立会いの下実施しました。非常ベルに驚いてしまい、恐怖で動けなくなる利用者さんもいましたが、職員で役割を分担し、協力体制で安全に避難訓練を終えることが出来ています。

■年間のアート出展【あかるいどうで参加した展覧会・ワークショップ等】

- ・「くばらだんだんアート展」応募期間 7/1～10/1 開催期間 3/24～3/29
- ・「写真刺繍ワークショップ」9/2 開催
- ・「空知のアーティスト展」開催期間 10/2～12/23
- ・「いわみざわアートアカデミー」10/15 開催
- ・「みんなあ〜と」開催期間 10/16～10/18
- ・「リサイクルアート展」開催期間 10/24～10/26 → 帯広プロダクツ展示
- ・「いわみざわハート&アート展」開催期間 11/6～11/10
- ・「北海道障がい者のアート展」開催期間 12/11～12/16
- ・「irodoriーイロドリ展 vol3」開催期間 12/25～2/23
- ・「アール・ブリュット in 苫小牧」2/28 開催 → 巡回展 3/1～3/31



「いわみざわアートアカデミー」の様子

■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施。法人本部にて職員全員参加での会議を実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

7月に健康診断を実施しています。年々と年齢を重ねて、利用者さんの中には体調不良を伝えられない方もいるため、定期的な健康診断の結果が重要となります。ご家庭にも協力をいただきながら一人一人の体調面に配慮しています。また、市内ではコロナ感染のほかに、インフルエンザや、ウイルス性胃腸炎が流行したため、館内の消毒や日々の検温、体調管理を徹底しました。

## 活動報告

### 1. 取組みの概要

#### ■事業班名 にこにこ

令和7年度は ARTAKARUIDOU（あーとあかるいどう）としてアート制作に取組み、この ARTAKARUIDOU というチームから生まれた芸術作品の啓発活動に力を入れた1年間でした。今年度初めて挑戦した「リサイクルアート展」（札幌市開催）では、応募した作品が審査員特別賞と賞金を受賞することができました。作家さん本人もさることながら、あかるいどうの利用者さんも支援スタッフも皆で喜びを分かち合い、あかるいどう全体の利用者さんの創作に対するモチベーションが上がる瞬間となりました。

写真・動画投稿サイトインスタグラムでは、芸術作品を毎週投稿することを目標に取組みを続けました。定期的に活動を続けることで ARTAKARUIDOU のファンが増加中です。今後、利用者さんや作家さんにとって有益となるような場にしていきたいと考えています。

正面玄関ギャラリーでは定期的に展示作品を入れ替え、巨大リースを飾るなどして市民の方に気軽に入ってこられるような空間を心がけ、絵画の大きさによって値札を付けて販売促進にも取り組みました。時折市民の方が訪ねてくださり、展示作品を購入してくださいました。国道に面したウィンドウズギャラリーも、テーマごとの大きな作品展示を続けてきました。街ゆく人々の目に留まり、立ち止まって見入っている市民の方もおられ、制作者のモチベーション向上の一助となりました。あかるいどうの事業であるアート活動も13年目を迎え、利用者さんの創作力の高まりと共に次のフェーズへの確実な歩みを進めています。



## ■事業班名 さんさん

企業からの下請けとして、主にシール貼り作業とチラシ配り作業に取り組みました。作業ごとに必要な治具を作り、だれでも参加が可能な環境作りを心がけました。また、参加を希望する利用者さんが、取り組みの内容によって健康増進が図られる、または、モチベーションや心の安定が保たれることを目標に、利用者さんの選択肢を増やす活動としました。年末のお楽しみ行事「利用者忘年会」で発表される、利用者さんの皆勤賞の賞状作りと職員の永年勤続表彰の賞状作りに取り組みました。皆勤賞には絵画を背景に、永年勤続にはその職務に即したイラストを利用者さんが描いて賞状の背景に入れ込むことで、受け取る方にも喜んでもらうことが出来ました。



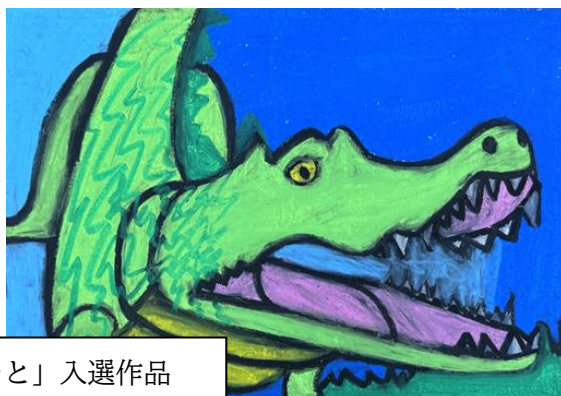
## ■余暇活動支援

週末の木曜日と金曜日の午後にはレク活動を実施しました。5～9月までの暖かい日には岩見沢神社や近隣の公園へ散歩に出かけています。多目的室では様々な遊びをしましたが、中でもオセロなどのボードゲームとジェンガが人気で、利用者さん同士や職員と対戦し一喜一憂して楽しんでいました。ボールを使っているの穴に入れるゲームでは、点数を競い合いながら真剣に勝負をしていました。運動器具は誰でも気軽に使用できるように設置して、職員からも利用者の皆さんを幅広くお誘いして、簡単なトレーニングを実施しました。



## 2. 成果

今年度も多くの展覧会に出展を果たしました。今年の特徴は、作家さん個人が展覧会に選出されたり、入選や受賞の回数が増えてきていることです。利用者さんがあかるいどうで長い期間アート制作に携わってきたことで、各々の創作力が培われ、芸術性が高まっていると感じます。また、創作に向き合ってきた職員の支援にも創意工夫がみられ、様々な角度からの視点による芸術作品が完成しています。また、これまで利用者さんの健康維持に取り組んできましたが、専門的な知識に欠ける部分がありましたので、職員に向けた「お茶の間健康教室」を岩見沢市の保健師を招いて開催し、筋力維持の大切さと実際のトレーニング方法を学びました。近くにいた利用者さんも興味深々に話を聞いており、あかるいどう全体で健康への意識が高まった様子でした。



「みんなあ〜と」入選作品



「リサイクルアート展」受賞作品



「お茶の間健康教室」の様子

アートカレンダー2026の制作に取り組みました。今年は例年の壁掛けカレンダーに加えて、卓上カレンダーも制作して販売促進に取り組みました。創作活動に参加しているほぼ全員の利用者さんの作品を掲載し、素敵なカレンダーが完成しています。親御さんや関係者の皆さんからも賛美の声を頂きました。壁掛けカレンダーは、お世話になった方やお世話になった施設、役員の皆さんへ、法人からの挨拶としてお渡ししています。卓上カレンダーも希望の方に販売して、利用者さんへ絵画の使用料支払いや工賃の支払いに寄与しました。



アートカレンダー2026（一部抜粋）

### 3. 課題

言葉や意思の表出が難しい利用者さんの気持ちを汲み取るために様々なツールを増やして用意しましたが、その仕組みの構築が追いついておらず、ツールを活用しきれていない部分がありました。職員が学びを深めて支援に活かしていきたいと思います。また、意思決定の支援を充実させることが、利用者さんの権利を護るために重要であるということを常に意識して取り組んでいきたいと考えます。また、重度高齢化に向け、体力維持の為の活動や余暇支援を充実させて、一人ひとりの利用者さんの生活や人生が豊かになるような支援を目指していけたらと思います。

## 令和7度 わくわくどう 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

利用者の適正に応じた作業環境を整え、多様な利用者ニーズに応じて、生産活動支援の可能性を拡げ、高工賃を目指しました。

そらかぜ食堂は、2015年の開店から10周年を迎える事が出来ました。新定番メニュー、セットメニューを開発し、持続的に生産可能なメニューの販売を開始しました。また、継続して感染症予防や食中毒発生防止等、衛生面での意識向上、原材料や建物使用料・水道光熱費の高騰による影響への対策と対応。安定した集客数と期間限定メニュー等を開発し、収入確保の対策を行なっています。

令和5年4月末から外部就労として始めた「介護老人保健施設ゆあみーる」での作業は、使用後の食器や調理器具等の洗浄、盛り付け作業を主に行なっていますが、利用者さんの能力が向上し、新しい工程の作業にも挑戦しています。作業工程が増える事によって、工賃向上に繋げる事が出来ていましたが、都合により本年度をもって業務委託契約を終了しています。

印刷プリント作業では、新規設備導入を行ない、新たな技術の獲得を進め、商品の製造技術を高め、質の安定、営業活動を行ない作業量の確保を進めました。

また、より多くの方に、空知の風の取組みを知って頂くため、アンテナショップの令和8年4月の開設を目指し準備をしています。

生産活動収入としては様々な影響がありましたが、全体を通して取り組みの成果や働く経験を得る機会にもなり、平均工賃も4万円を超え、利用者さんそれぞれがやりがい、達成感を得られた年になっていれば良いと思います。

### 2. 実施事業

■就労継続支援事業B型 定員20名 現員16名

### 3. 令和7年度の利用状況

■就労継続支援事業B型（定員20名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	利用率
実人数	15	15	15	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	67.3%
開所日数	25	24	25	26	24	24	26	23	24	23	22	25	291	
延利用回数	325	330	323	336	274	320	362	321	345	331	303	352	3,922	

平均実利用数 13.5名（小数点第2位以下切り上げ）

#### 4. 取組みの概要

##### □事業所内での生産活動

###### ・「そらかぜ食堂」の運営

空知総合振興局、道職員の皆様を中心に食事の提供を行なっています。SNSで日替わりメニューの発信等の影響もあり一般のお客様の来店も増え、以前よりも市内への周知度が増してきていると実感しています。

コロナ過も明け、集客数が伸びましたが、原材料等の高騰もあり提供価格の見直しを進め、振興局総務課と協議を行ない、商品の値上げを実施しています。

新定番メニュー、セットメニュー、期間限定メニューの新商品開発や試作を重ね1人でも多く方に利用していただけるように検討を重ねています。

利用者さんの作業面では調理技術や接客技術の向上が見られ、それぞれ役割を担いながら協力して取り組みを進めています。

##### □施設外就労支援

###### ・「介護老人保健施設ゆあみーる」での施設外就労作業

決められた時間内に作業終了させる素早さ正確性が求められ、大変な作業ですが、担う役割も徐々に増えていく事で工賃も上がり、やりがいや達成感を得られていたのではないかと感じています。

##### □自主事業・印刷プリント作業

・昨年度よりも多くの御注文を頂き、治具を使用したプリントの位置合わせや、圧着プレス作業など、難しかった工程も向上し、生産力を高めることが出来、売上に結びついています。新規設備導入を行ない、新たな技術も獲得し、商品の製造技術を高めています。

##### ■権利擁護

権利擁護・苦情解決委員会の活動として、北海道知的障がい福祉協会で開催されている「人権侵害ゼロへの誓い」に職員全員が署名しています。併せて日本知的障害者福祉協会の倫理綱領を確認しています。また、毎月スタッフへのセルフチェックを行ない、自己覚知、支援の見直しを行なっています。

そらかぜ食堂7名、施設外就労5名、館内作業4名と、分かれている事もあり、それぞれの現場で少人数での対応が行なえています。会議での報告などから話し合い支援中の声掛け、働きかけなど改めて権利擁護の視点から一つひとつの支援について考え、特性による個別な関わり方、課題を共有するなど情報共有の機会にもなっています。

## ■苦情解決

今年度の苦情受付は0件でした。

日々、利用者さんの悩みや不安、相談など聞き取り、話をする機会を設けています。特に利用者さん本人の作業へのスキルアップや、他利用者さんとの関係性についての相談が、日常での会話から聞こえてくる事もある為、その都度対応を行なっています。訴えることが苦手な利用者さんもおおり、日々の表情や行動の変化に配慮し、親御さんやグループホームのスタッフとも情報交換を行ないながら、利用者さん自身ご家族が安心して利用できるための環境作りを今後も行ないたいと考えています。

## ■感染症対策

食堂作業、ゆあみーる作業に従事する利用者及び職員の全員が毎月、検便検査を実施し、更に体調管理と衛生面に配慮しています。加えて、新型コロナウイルスの対策も継続しています。毎朝の検温、館内の消毒等も定期的に時間を決めて対応を行ない予防に努めています。ご家族とも連絡を取り合い、健康状態の把握や交通機関の利用時間変更や送迎対応なども協力を得て進めています。

## ■災害対応・事故対策

避難訓練を2回実施しています。地震や火災を想定し第一発見時からの行動や通報マニュアルの確認、避難誘導など、実戦想定で基礎的な訓練を実施しています。また実際に避難はしごを使用する想定で2階窓枠への設置方法など避難はしごの使い方も確認しています。様々な想定訓練や防災対策と同時に、作業活動先での避難方法なども職員間で共有する機会としています。

## ■年間行事

年度内に実施した法人事業所合同の行事に関しては法人の事業報告参照。

## ■諸会議

- ・法人全体会議・・・定例で月1回実施しています。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施しています。計画原案をもとに支援内容等について検討し、利用者さんにわかり易く提示できるようにスタッフで議論しています。
- ・ケース会議・・・その日にあったケースを各担当から報告し、必要に応じて事例検討を行ない、支援方針を立案しています。

■健康管理

今年度は、7月に健康診断を実施しています。

■工賃支払い状況

□就労継続支援事業B型

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
実人数	16	15	15	15	15	15
総支給額	490,200	478,800	473,400	500,700	490,600	382,400
平均額	30,638	31,920	31,560	33,380	32,707	25,493

月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	15	16	16	16	16	16	186
総支給額	483,600	509,000	943,100	506,000	472,300	1,006,700	6,736,800
平均額	32,240	31,813	58,944	31,625	29,519	62,919	<b>41,585</b>

□事業所全体の平均工賃月額 ¥41,585/月 (平均13.5名)

5. 課題

今年度も、様々な物価の高騰が続いており、食堂運営の収入や活動で影響を受けています。今後も段階的に価格を見直し、料金改定を行なうことが必要となるかもしれないと感じています。

また施設外就労の利用者さんが、毎日、活動が出来る環境と、役割を担いながら工賃向上にも繋がり、やりがいを感じてもらえる場を維持する事が、重要と感じています。

印刷プリント事業の増産体制や、営業による作業の確保も同様に進めながら、利用者さんが楽しみや達成感を感じてもらえるように支援していきたいと思えます。

取り組む作業種によっては本人が辛い体験と感じてしまい、モチベーションが下がりがちになる事もあるかもしれませんが、息抜きや楽しみを提供していく事で、モチベーションを上げ、チャンスがあれば挑戦する、意欲の向上にも結び付けられるような関わりと支援をしていきたいと考えています。

## 就労事業の報告

### ■事業班名：そらかぜ食堂

#### 1. 取組みの概要

2015年開店から、2026年5月12日で満10周年を迎え、11周年目に入り、メニューの刷新を行ってきました。定食メニューでは、多彩で異国文化のメニューを取り入れたり、町中華の定番「チャーハン」、食堂の定番「かつ丼」、お得感満載のセットメニュー、また定番メニューのリニューアル等々も行い、毎日来店するお客さんに喜んでもらえるメニュー開発に取り組んできました。



#### 2. 成果

開店当初から、そらかぜ食堂で作業されてきた利用者さん達の、衛生管理、仕込み、調理全般、清掃、カウンター接客、タブレットを使用したレジでのキャッシュレス対応の向上は、継続して作業を進めてきた事により、目を見張る成長をしています。

また、数年前より、北海道健康増進計画に基づき、生活習慣病の発症予防のための食事提供を目指し、野菜摂取量の増加、塩分控えめのメニュー、国産漬物を取り入れ、お客様に喜んでいただいています。

#### 3. 課題

昨今の、お米価格の高騰、食品材料費の値上げ、水道光熱費の上昇で、メニュー価格の見直しを行なってきましたが、収益の増額にはあまり至っておりません。食品ロスの削減を継続し、利用者工賃向上に努めて行きたいと思いません。

#### 4. データ

利用者実人数：7名  
営業開店日数：242日  
年間来客数：21,691人  
月平均来客数：1,807人  
日平均来客数：90人  
生産活動売上：12,089,962円  
現金売上：7,581,079円  
電子決済売上：4,508,883円  
平均日倍：49,958円  
工賃還元額：298万円

#### 令和7年度年間ランキング

1位～B定食	(29.2%)
2位～A定食	(25.3%)
3位～小鉢	(8.6%)
4位～サラダ	(6.6%)
5位～カツカレー	(3.1%)
6位～ざるそば	(2.0%)
7位～カレーライス	(2.0%)
8位～チャーハン	(1.9%)
9位～鍋焼うどん	(1.3%)
10位～ゲソ丼	(1.3%)
(%)はオーダー数に占める割合)	

#### ■事業班名：施設外就労

##### 1. 取組みの概要

老人保健施設ゆあみーるで、食器洗浄作業行なっています。施設の利用者さんが使用した食器を次回の食事時にも使用出来るようにするため、決められた時間内に洗い終え、乾燥庫へ収納し、乾燥完了後は所定の位置に片づけています。

また盛付作業では、食する利用者さんによって、量が違うため、正確に計量しお椀の縁を汚さないよう綺麗に仕上げる事が出来ています。また配膳カートの正しい位置に食事を入れる、差し込み作業も新たに挑戦し出来る事を増やしていきました。

##### 2. 成果

素早さ、正確さを要する作業ですが、利用者さん一人ひとりが新たな作業に挑戦した事で、経験や自信、やりがいへと繋がっていたように思えます。

又、みそ汁の盛り付け作業や、差し込み作業にも挑戦し、役割を増やし工賃向上に繋げる事が出来ています。

作業するにあたり、健康管理も重要な要素なため、生活習慣も改善し、健康的に過ごす事が出来ていました。

##### 3. 課題

通年を通して、安定した活動を行なえる作業の確保が出来ています。それに伴い、体力が必要な作業でもあるため、1週間やり遂げられるモチベーションの維持のため、息抜きや楽しみを提供していけたら良いと考えています。

#### 4. データ

利用者実人数：5名

施設外就労収入：259万円 工賃還元額：259万円

#### ■事業班名：自主事業班（印刷製造作業）

##### 1. 取組みの概要

受注された様々なロゴのデザインを作成し、T シャツやポロシャツ等の商品を販売しています。継続して作業を行ってきた事により、利用者さん一人ひとりの役割も増え、正確性、生産数、スピードもUPしています。特に難しい作業である、貼り付けるラバーの位置合わせも治具を使用して進め、プレス作業、包装なども効率良くできるようになっている事で、やりがいや達成感を感じながら取り組んでいます。

##### 2. 成果

全国の繋がりのある事業所や市内の企業、団体様より沢山の御注文を頂き、商品の作製から出荷準備に至るまでの工程において、難しい作業にも挑戦し、利用者さんの新たなスキルの習得が来ています。

T シャツ等の主に夏場を使用する商品が主力のため冬場の受注がない状態が続いていましたが、パーカー等の秋、冬物衣料の営業も行ない、受注を獲得する事が出来てきています。



治具を使用した位置合わせ作業



新設備、DTF プリンター



受注作製した商品

##### 3. 課題

引き続き冬場の作業確保、また新設備を導入した事による、製品の質、売上向上を目指し、商品のPR活動が必要と考えています。

#### 4. データ

生産活動売上：257万円 工賃還元額：115万円

## 令和7年度 そらわーく 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

就労系福祉サービス（就労移行支援、就労継続支援A型、B型）を利用希望の方が、作業体験や、就労アセスメントの手法により、働く力や適性等を評価し、より自分にあった働き方の選択ができる事を目的とし、令和7年10月1日に就労選択支援事業所「そらわーく」を開設しました。

様々なワークサンプルや就労体験を通して、利用者本人と協同しながらアセスメントを実施し、本人の得意なことや苦手なことを把握し、必要な支援内容について検討を行ない、就労系福祉サービス利用へつなげる支援を行ないました。

また、事業周知のためリーフレットを作成し、空知管内の高等養護学校や、市内の相談支援事業所へ説明・周知を行なうことで、関係機関との連携強化に努めました。

推-1 指示された手順に従って作業する		A	B	C	?	
選択解除	<input checked="" type="checkbox"/> ① 対象者の自己評価	指示された手順に従って作業できる。	具体的に指示されたら、指示された手順に従って作業できる。	具体的に指示されたら、指示された手順に従えない。	未経験・未確認・不明	ストレングスになる
<input checked="" type="checkbox"/>	② 協同評価：支援・配慮なし	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	③ 協同評価：支援・配慮あり	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
<b>評価の方法</b> <input checked="" type="checkbox"/> 面接による聞き取り <input type="checkbox"/> 関係者からの情報収集 <input checked="" type="checkbox"/> ワークサンプル <input type="checkbox"/> 場面設定法(作業場面) <input type="checkbox"/> 職場実習 <input type="checkbox"/> 検査 <input type="checkbox"/> その他(詳細を下の欄に記入) ワークサンプル希張版の文書校正課題						
<b>評価の理由(ストレングスの内容を含む)</b> 視覚的な情報の理解力が高い。わからない点があっても質問することが出来る。						
<b>支援・配慮の内容</b> 写真入りの作業指示書を使用することで手順のミスがほとんどなくなった。						

就労アセスメントシートの一部



リーフレット

### 2. 実施事業

■就労選択支援事業 定員10名 現員1名

### 3. 令和7年度の利用状況

■就労選択支援事業 (定員10名)

利用者実績：1名 利用日数：11日

#### 4. 取組みの概要

高等養護学校の生徒1名に対し、2月に1か月間の利用を実施しました。本人・家族・学校教員と連携を図りながら支援を進め、本人の強みや課題、必要な配慮について整理を行なっています。利用期間中は、関係機関と情報共有を行ないながら、本人が安心して取り組める環境づくりを意識して支援を進めました。

本人からは、将来的にイラストレーターや接客に関わる仕事をしてみたいという希望が聞かれており、法人内の様々な作業種を活用し、あかるいどうではイラスト制作、春いろではカフェ接客の体験を実施しました。イラスト制作では、細かな描写や高い集中力、豊かな表現力が見られ、本人の強みを確認することができました。また、カフェ接客では、実際のお客様対応を通して、挨拶や言葉遣い、接客時の様子などを確認し、働く上で必要な配慮や課題について整理することができました。

実際の作業体験を通して、本人の得意なことや興味関心だけでなく、働く際に必要な支援や環境面での配慮について具体的に確認することができ、本人自身の自己理解にもつながる機会となりました。

その結果、利用者自身が進路を主体的に選択する動きが見られました。

#### 5. 課題

利用者一人ひとりの特性や希望、生活状況に応じたアセスメントや支援方法について、さらなる確立が必要だと感じています。利用者ごとに障がい特性や必要な配慮が異なるため、本人に合った支援方法を継続して検討し、個別性の高い支援へつなげていく必要があります。また、本人の自己理解を深めながら、将来的な進路選択や就労へ結びつけられるよう、アセスメント内容の充実が求められています。

さらに、アセスメント結果を就労先や進路選択へ効果的につなげるため、他事業所、企業、学校、相談支援事業所など関係機関との連携強化や情報共有方法の整理が課題となっています。あわせて、地域への周知・広報活動を継続し、就労選択支援の認知度向上につなげていく必要があります。

また、支援マニュアルやワークサンプルについても、実際の利用を通して改善点が見えてきているため、継続した見直しと更新が必要です。さらに、身体・知的・精神の3障がいに対応できる支援体制を整えるため、研修等への参加を通して職員のスキルアップを図り、より質の高い支援につなげていく必要があると考えています。

## 令和7年度 歩～夢 事業報告

### 1. 令和7年度事業の総括

令和7年度は新たに2名を迎え42名でスタートしましたが、生活適応の困難さやご家庭との支援方針の相違などにより、それぞれ5月と8月に退所され、現在の利用者数は40名となっております。事前には見えにくい特性への対応やご家族との連携など、グループホームにおける生活支援の難しさを再認識し、今後の運営に活かすべき課題を得ました。

利用者の安心安全な生活を守ることが非常に重要である中、今年度は作業中の転倒による右大腿骨骨折の事例が発生いたしました。手術やリハビリ、超音波治療を経て3ヵ月後に退院となり、現在は手すり設置等の環境整備のもと生活されています。また、健康診断に伴うポリプ切除（悪性所見なし）や、他数名の再検査への通院調整も随時行いました。突発的な事故への対応や複数名の通院・検査調整など、日々の生活支援と並行して医療連携を行う難しさを痛感する一年となりました。

余暇支援においては、個別支援（誕生日会や買い物等）や恒例行事（春秋のBBQ、12月の忘年会）を実施し、普段交流の少ない方同士が親睦を深める良い機会となりました。特筆すべき点として、個々のニーズに応えるため「少人数旅行（1泊2日を4回、日帰りを3回）」を新たに企画・実施したほか、コロナ禍以前の「ティーボール大会」への参加も再開できました。全体を通して、利用者の多様なニーズに応える非常に充実した余暇支援を提供できた一年であったと考えております。

今後の事業展開といたしましては、高まる入居・宿泊体験のニーズへの対応や経年劣化による住環境の更新を視野に入れ、新規物件の取得および開設に向けた取り組みを進めております。さらに、将来的な利用者の重度化・高齢化を見据えた「日中サービス支援型グループホーム」用地の取得についても現在検討を進めており、今後の安定した施設運営とより良い支援環境の構築に向け、着実な基

盤整備を進めてまいります。



春の BBQ 26名も参加してくれました！



今年はレストランコロナで忘年会！

## 2. 実施事業

共同生活援助事業所（合計定員46名）※宿泊体験5名含む

春が来た荘	定員5名	現員2名	（宿泊体験 2名）
夏色荘	定員5名	現員5名	
秋いろいろ荘	定員4名	現員3名	（宿泊体験 1名）
桜なごみ荘	定員4名	現員4名	
もみじ色づき荘	定員5名	現員4名	（宿泊体験 1名）
ふきのとう	定員3名	現員2名	（宿泊体験 1名）
みないい荘	定員4名	現員4名	
虹のかけはし荘	定員5名	現員5名	
波のり荘	定員5名	現員5名	
ゆめばえ荘	定員5名	現員5名	
ゆめばえサテライト	定員1名	現員1名	



### 3. 令和7年度の利用状況

※定員46名（宿泊体験5名：4月～3月）※年間365日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	42	41	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
延利用 回数	1,204	1,161	1,137	1,178	1,155	1,161	1,198	1,146	1,157	1,156	1,079	1,211	13,943

※平均実利用者数 38.7名（小数点第2位以下切り上げ）

※令和7年4月から令和8年3月までに入居された方は女性2名でした。

※高等養護学校からのニーズがあり宿泊体験利用の実績が増えました。

※宿泊体験

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	3	5	6	3	4	5	4	2	3	2	2	
開所 日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
延利用 回数	13	10	32	23	9	12	19	14	6	10	6	6	160

宿泊体験の利用については、入居を視野に入れた体験的利用に加え、ご家族の事情やご葬儀への参列などの緊急的な相談も受け、より多くの希望に対応してきました。

### 4. 取組みの概要

#### ■利用者支援

##### 1. 行動面の変化と対応

加齢に伴い自己主張が強まる利用者には、日中活動やホーム内で都度丁寧な面談を実施し、必要時は医療機関と連携して精神的な安定に努めております。

##### 2. 健康管理の取り組み

加齢に伴う生活習慣病リスク（高血圧や高血糖等）の増加に対し食事改善を促しています。理解を得難い場合は継続的にリスクを説明し、医療機関と連携した服薬管理を行っております。

### 3. 食事に関する支援

偏食や食材に制限がある利用者には、個々の状況に応じた食事の工夫を行なっています。安心して食事できる環境調整と記録を職員間で共有し、安全で継続的な食事支援に努めてまいります。



地域のお祭りに参加！



盆踊りに出店！

#### ■権利擁護

権利擁護の強化として、毎月のチェックシートの活用や内部研修を実施しました。職員間で忌憚なく意見を交わせる環境を作り、日中事業所との連絡帳の記述も含め、日頃からの言葉遣いや接遇、支援のあり方を見直すなど意識向上に取り組んでおります。

#### ■苦情解決委員会

今年度の苦情受付は1件。原因は、職員会議で取り扱われた内容が不注意により利用者へ伝わってしまったという、情報漏洩に該当する事案です。支援において重要であるはずの信頼関係を損ない、利用者不信感を抱かせてしまったことを重く受け止めております。この件を組織全体の問題として共有し、改めて情報管理体制を見直すとともに、再発防止に向けた指導を徹底してまいります。

#### ■感染症対策

感染症対策はこれまで同様に、マスク着用、うがい、手洗い、消毒の声かけや住居の換気等の支援を継続して取り組んでいきましたが、コロナ感染者が発生してしまっています。同居者全員に感染することなく、収束しています。また、嘔吐物の処理の仕方や居室の換気、消毒など感染予防の意識や理解・感染予防の必要性を伝えていくことが大事と再確認しました。

## ■災害対応・事故対応

各住居にて火災を想定した避難訓練を実施し、火災発見時の大声での周囲への周知から、電話通報、屋外の安全な場所への避難までの一連の流れを実践しました。訓練の前後には避難時の注意点を説明し、利用者さんとの質疑応答や感想の共有を通じて、防災の重要性を再確認しています。さらに、賞味期限の近い備蓄品を皆で試食する機会も設け、実際の災害時の食事を具体的にイメージできる有意義な体験となりました。



## ■年間行事

令和7年度	内容
4月～令和8年3月	各住居ごとでの誕生日会を実施 教育大学運動プログラム実施（隔週）
5月3日	GW バーベキュー（たのしいどう駐車場）
5月4日～6日	GW 個別希望外出
5月17日	クリーングリーン作戦2025参加
6月8日	モルック大会
7月28日	日帰り旅行（白い恋人パーク）
8月11日～15日	お盆休み個別希望外出
8月29日～30日	1泊2日旅行（21世紀の森でキャンプ）
9月3日・4日	火災避難訓練（全ホーム）
9月7日	空知知的障がい福祉協会ティーボール大会
9月10日	日帰り旅行（樽前山登山）
9月14日	秋のバーベキュー（たのしいどう駐車場）
9月26日～27日	1泊2日旅行（洞爺湖で花火鑑賞）
10月4日・18日	赤い羽根募金
10月17日～18日	1泊2日旅行（洞爺湖で花火鑑賞）
11月7日～8日	1泊2日旅行（登別温泉）
11月16日	フレンドカレッジ参加
12月26日	歩～夢大忘年会 in レストランコロナ

令和8年1月1日	初詣（岩見沢神社）
1月1日～5日	年末個別希望外出
2月11日	ティール大会（プレミストドーム）
2月18日	日帰り旅行（ワカサギ釣り）
2月19日・20日	防災訓練（全ホーム）
3月14日	モルック大会

たくさんの思い出



誕生日会で外食！



クリーングリーン作戦！



モルック大会！初の1勝！



白い恋人パークでクッキーづくり！



21世紀の森でキャンプ！



ティーボール大会 in プレミストドーム！



樽前山登山！



ワカサギ釣り！



登別温泉！



赤い羽根募金！



洞爺湖温泉！きれいな花火が見られました！



## ■ 諸会議

- ・法人全体会議・・・たのしいどうにて月1回実施。
- ・個別支援計画策定会議・・・個別支援計画作成時に1ケースごとに実施。計画原案をもとに支援内容等について検討しました。
- ・ケース会議・・・日々の利用者支援について検討を行ない、支援を実施しています。
- ・企業就労担当会議・・・定着支援のほか、就職・転職の支援について情報を共有して、支援の方向性を話し合っています。
- ・権利擁護担当者会議・・・権利擁護の強化として、毎月のチェックシートの活用や内部研修を実施しました。

## ■ 地域連携推進会議

当施設が地域に開かれた場所として透明性を保ち、利用者が安心・安全に暮らし続けられる環境を築くことを目的に、令和8年2月14日に地域連携推進会議を開催いたしました。

会議には利用者、ご家族、地域関係者、施設職員の計6名が出席し、各住居を巡回して日頃の生活環境や施設の現状をご見学いただきました。その後の意見交換会では、外部の客観的な視点から、職員だけでは気づきにくい細やかなご指摘や環境整備に向けた貴重なアドバイスをいただくことができました。

多角的な視点で現状を見直す大変有意義な時間となり、今回得られた気づきやご提案は、今後のより安全で快適な環境づくりと、地域に根ざした開かれた施設運営に活かしてまいります。



## ■健康管理

今年度、定例の健康診断は感染状況を確認しながら7月に実施し、利用者の再検査等の対応を行なっています。今年度は、岩見沢市の特定検診に該当する利用者が数名おり、がんなどの検査項目を増やして検診を受けています。再検査となった方が多く、協力医と連携して再検査を実施しています。その中で大きな病気が見つかり、入院・手術となった方がいました。

利用者の年齢が上がるにつれ、高血圧、肝臓、腎臓、血糖値の数値が上がってきているため食事や間食など気を付けるよう本人と話し合っています。また協力医や看護師と連携し、病気の予防と早期発見に努めたいと思います。

## ■支援記録

各住居の支援日誌や日中事業所の連絡帳、業務日誌などは利用者の日々の体調や心の変化を共有するツールでもあることから、確実に記録を残し、正確に引継ぎを行なうように留意しました。また、日中活動との連携の為、連絡帳を用いて生活の様子や体調の変化、帰省等の予定などの記載を行なっています。

ご家庭と連絡・調整は、電話やメール・連絡帳を利用し、日々の様子の報告や相談をさせて頂きました。ご家庭からも様々な返答が記載されており、通院や次回帰省の日程などを職員間で周知しました。

## ■施設整備状況

- ・各グループホームの玄関にセンサーライトを設置しています。(防犯)
- ・8月に新しい公用車「タウンエース」を納車しました。それに伴い、これまで使用していた「白シエンタ」を処分しました。

■ 楽しく（たのしいどう併設）

1. 令和7年度事業の総括

日中一時支援事業「楽しく」は、今年度も岩見沢市・三笠市・栗山町の3市町村と委託契約をし、継続して実施しております。各事業所ごとに事業を開催しており、それぞれの取り組みによって利用者一人ひとりの特性に合わせた支援に繋げることができています。

また、外出メニューでは、普段とは異なる環境での体験を通して、充実感や楽しみの提供に繋がっています。



ハイジ牧場での様子

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員 20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和7年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	8	6	9	6	6	6	6	3	5	5	6	6	
延利用回数	26	6	22	20	14	14	13	5	7	7	12	14	160

土曜午後の時間を活用した余暇支援を46回年間で実施しました。

4. 取組みの概要

毎年人気のボーリングやカラオケの他、季節に応じて数回、外出しています。ボーリングでは、マイボールやシューズを持参される方もおり、皆さんの歓声が響き渡る中で、普段とは異なる利用者さんの一面も見られ、皆さん楽しく参加されていました。

また、外部から講師を招き、メイク教室も開催しました。今年度は男性の方の参加もあり、基本のスキンケアや洗顔方法、メイク方法やヘアメイクについて学ぶ機会となりました。仕上がったご自身の姿を見て、皆さん嬉しそうな様子が見られました。さらに、お菓子作りや外出行事は希望者が多く、お菓子作りでは季節や旬の食材を取り入れたメニューを毎月提供しています。外出メニューでは、果物狩りや動物見学のほか、今年も岩見沢市で開催された「岩見沢ドカ雪祭り」にも参加しました。外出先では、自分へのご褒美として好きな食べ物を選んで味わう機会を設けるなど、さまざまな体験が出来る様工夫してい

ます。また、利用者さんの行きたい場所や創作などを聞き取りながら、希望を反映したメニュー作りにも取り組みました。

## 5. 成果

人気のあるボーリングやカラオケは、交流の場として大いに盛り上がり、楽しさを皆さんで共有できる機会となっています。また、季節を感じられる外出メニューも有意義な時間であったと感じています。さらに、様々な体験や経験を通して、普段とは違う姿や自然な笑顔が見られ充実した時間を過ごせました。



ドカ雪祭りの様子



カラオケの様子



ボーリングの様子

## 6. 課題

実施できる時間に限りがある事や、冬期間は路面状況の影響により遠方への外出が難しい事から、外出のメニューの幅が狭くなる現状があります。また、近隣の外出先については、行き慣れている為、滞在時間が短くなり飽きが見られる場合もあります。感染状況が落ち着いた事により、各種イベントも増えてきている事から、今後は新しい外出先の検討やこれまで実施したことのない制作やお菓子作りなど利用者さんの興味を引き出せる内容を取り入れていきたいと考えています。利用者さんの希望を汲み取りながら楽しみや充実感に繋がる余暇メニューの提供に努めていきます。



メイク教室の様子



お菓子作り・制作の様子



制作の様子

■うきうき（きっちんどう併設）

1. 令和7年度事業の総括

岩見沢市より指定を受け、日中一時支援事業「うきうき」を実施しています。岩見沢の他に、三笠市とも委託契約をしています。きっちんどうの館内で、お菓子作りや創作、外出メニュー等を色々企画しています。また、利用者さんからのリクエストに応じながら、週末の楽しみが少しでも増えるようメニューも工夫しながら提供しています。



餅つきでの様子

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和7年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	5	6	8	6	7	6	6	7	5	6	6	6	
延利用回数	10	17	17	15	18	15	17	15	8	16	19	16	183

土曜午後の時間を活用した余暇支援を46回年間で実施しました。

4. 取組みの概要

今年度も、きっちんどうの利用者さんと職員で、余暇時間を楽しんでいます。人気メニューのカラオケやボーリング、利用者さんからの行きたい場所や作りたいお菓子等を聞き取り、少しでも意向に沿えるような工夫も行なっています。余暇の時間を利用し、利用者さんへ様々な体験を提供しています。



外出での様子

## 5. 成果

各事業所で実施することで、メニューの幅も広がり、一人ずつの要望にも対応しやすくなっています。お菓子作りでは、決められたメニュー以外にも希望に沿ったお菓子を作る等、楽しみもより増やすことができています。決められた時間ですが、充実した時間が提供できたと感じています。



ドカ雪祭りやカラオケの外出時の様子

## 6. 課題

実施出来る時間に限りがあるため、外出で行ける範囲が限られてきます。より地元や近隣のイベント情報収集が、メニューの幅を広げるためにも大切だと感じています。また、季節の創作やお菓子作りも、新鮮な情報収集をし、興味を持ってもらえるような工夫が重要だと感じています。



リース作りや貯金箱作りの様子

お菓子作りの様子

■らんらん（あかるいどう併設）

1. 令和7年度事業の総括

令和6年7月から岩見沢市より指定を受け、日中一時支援事業「らんらん」を実施しています。岩見沢の他に、南幌町とも委託契約をしています。あかるいどうの館内で様々な創作やお菓子づくり、外出メニュー等を色々企画し、週末の楽しみが少しでも増えるように工夫しました。また、あかるいどうでは、ご家庭の都合による夕方の一時的なニーズもあり、ご本人の好きな創作活動を選んでもらい、お迎えまでの時間を過ごしました。

2. 実施事業

□日中一時支援事業定員20名（岩見沢市以外の定員は契約内容に基づく）

3. 令和7年度の利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数	6	5	5	5	2	5	7	2	2	1	6	2	
延利用回数	13	8	12	15	4	8	13	4	2	1	11	7	98

土曜午後の時間を活用した余暇支援を年間17回実施し、夕方の一時的な支援を36回実施しました。

4. 取組みの概要

今年度は、特に外出企画とお菓子作りは人気がありました。お菓子作りは、季節や節句に合わせて、あかるいどうの設備で出来る内容でメニューを考えました。カラオケ外出では少人数で個室に入り、自分で好きな歌を自由に選んだり、職員と一緒に選んだりしながら、とても楽しそうに参加されていました。また、創作のメニューも季節感を大切にしながら企画し、見栄えが良くなるように材料の選定にもこだわりました。



季節を感じる創作



メイク教室

## 5. 成果

人気のある外出企画は、普段一人ではなかなか外出が難しい利用者の皆さんの貴重な余暇時間となっています。岩見沢市内で開催されるイベントや近隣地域のお祭り、カラオケやボウリングなど様々なメニューで充実した時間を過ごすことが出来ました。



外出企画での一コマ

## 6. 課題

参加される利用者さんが徐々に限定的になってきていることを感じています。多くの利用者さんが参加したくなるようなメニュー作りを心がけていきたいと考えています。市内や近隣地域のイベント情報や社会のトレンド情報も取り入れて、利用者さんの選択する楽しみも提供できるように取り組んでいきます。



大好きなお菓子作り

